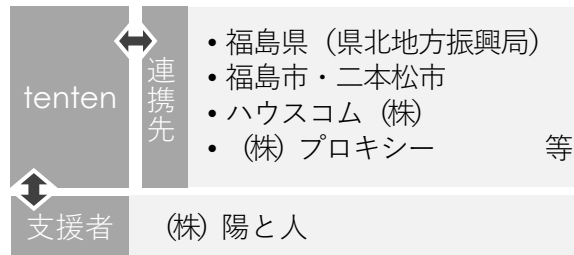


移住・転入女性が地域とつながり活躍できる環境づくりの拡大発展と自走モデル構築プロジェクト

取組背景・地域課題

- 移住・転入した女性の中には、外部との繋がりを作れず地域での暮らしに不安を感じたり、働きたくても定職につけず地域で孤立してしまう方も多く存在。転入女性の暮らしをサポートし、多様な働き方の選択肢をつくるのが移住・定住推進に不可欠。
- tentenでは、移住・転入女性が地域とつながり活躍できる環境づくりを実践してきた。今年度は取組の拡大発展を目指すとともに、自らが地域で持続的に活動するための自走モデルの構築を行う。

取組体制



取組の目的と内容

転入女性が安心して暮らせるための取組を福島県を中心に拡大発展させるとともに、団体運営を安定的かつ持続的に行っていくための自走モデルの構築を通じて、女性がいきいきと活躍する福島を実現する

1 移住・転入女性が地域とつながり活躍できる環境づくりの拡大発展

- 移住・転入女性がつながる場（tenten cafe）の運営リーダーを育成すべく人材発掘やマニュアル作りを進め、取組の広域展開を図る。
- 移住・転入女性の暮らしを支え多様な働き方の選択肢をつくるため、行政や民間企業との連携を広げる。
- 福島の魅力を発信する店舗開設や、移住・転入女性も作り手として関わる独自の衣料・雑貨ブランドのリリースを目指す。

2 自走モデルの構築

- 他団体との意見交換、これまで関わってきた移住・転入女性の声等から自分たちの活動の価値や今後の展開のあり方について再検討。
- 自団体として目指すべき自走モデルの構築・明確化を図る。

取組のポイント



9月openした「ent」

民間企業との連携拡大・entオープン！

- 県内各エリアで地域リーダーの候補者が見つかり、tenten cafe運営の説明会やマニュアルの運用確認を行った。
- ハウスコム株式会社と連携を結び、間取り図作成拠点を設けることとなった。在宅ワーク希望のメンバーへ安定的に仕事を供給する仕組みづくりを図った。
- 9月に福島の魅力を発信する店舗『ent』をオープンした。

ディープヒアリングから今後の活動方針を整理！

- 過去のイベント参加者、SNSでのみつながっていてイベント参加には至っていない層へ、tentenを知ったきっかけやイベントを通してどういったマインドの変化が生まれたか等を確認するディープヒアリングを行った。
- その結果を踏まえ、tentenの活動の受益者のペルソナ分析や、団体として起こしたい変化やそのための事業のあり方等をまとめたロジックモデルを整理。今後の活動方針を明確化した。

ディープヒアリング 結果整理



ロジックモデルの整理

取組の主な成果

- 郡山市、南相馬市、会津地域で新たな地域リーダーが見つかり、随時研修を行った。新店舗「ent」でも藤本氏以外が主体となり運営を行うなど、順調に人材育成を行うことができた。
- 継続的なイベントの実施や店舗のオープンを受けて団体としての認知度が更に高まり、飯坂温泉からモニターツアーを依頼されるなど、「ソトモノ目線で福島に貢献する」新たな事業も生まれた。
- ディープヒアリングを通して団体としての強みを表面化することができ、「参加者が地域に根づくプログラムづくり」により注力していくという次年度以降の方向性を定めることができた。



「ent」外観・店内の様子

支援対象団体担当者からの声

2年連続で伴走支援をいただいたことで、より弊社の活動や強みを理解していただいた上で、その強みをさらに活かせる方向へアドバイスをいただきました。特に今年度の後半に行った受益者を対象にした「ディープヒアリング」をしたことによって、サンプルストーリーができ、弊社の判断基準となるロジックモデルも受益者の変化や声を反映させたものに改善することができました。今後も受益者の声を聞きながら弊社らしい事業展開を行ってまいります。2年間本当にありがとうございました。